

## 本館開館日程表

### ■夏季特別貸出 / Long-Term borrowing

2021年7月22日(木)~9月7日(火)

返却期限日 / Due Date  
2021年10月8日(金)

### ■予定について / Schedule

【開館時間】平日9:00-20:00

7月以降の開館予定は現段階でのもので、今後の新型コロナウイルス拡大防止の状況に鑑み、変更する可能性があります。

最新の開館日程については、Twitterやウェブサイトにてご確認くださいませう、お願いいたします。

There might be a change in schedule. Please visit our Twitter or website for details and refer to the Twitter.



Yoshida-South Library  
Twitter



京都大学図書館機構  
The Kyoto University Library  
Network

## 環onのご案内

「オンラインで」話せる図書館 環on(わおん)

00 9:00-20:00 00 休館 / Closed

00 定例休館 / Closed ※環onは開室 00 9:00-17:00 ※環onは開室

7						
S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8						
S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

【開室時間】平日9:00-17:00

【アクセス】人間・環境学研究科棟1F東側

※アクリルスタンド、消毒液等を設置しています。  
※マスクをつけてご利用ください。オンライン授業にご利用いただけますが利用者同士の会話はできません。

京都大学 吉田南総合図書館 (愛称: 遺選館) 〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

Tel : 075 (753) 6524, 6525 Email : a30yslib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp  
Web : http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/ Twitter : @yoshidasouthlib

Web



# K A L I N

Experience books in a different way!

いつもと違う

本と出会う

Thesis writing support campaign

表面: 企画ほか Front: Events and other info

卒論・修論執筆  
応援キャンペーン

What are you reading over summer break?

裏面: アンケート Back: Questionnaire

夏休みなニヨム?

## 【企画】 卒論・修論執筆応援キャンペーン (2021/07/01~08/06)

夏が近づくこの時期から、卒論や修論の執筆に本格的に取り組む方も多くなります。ただ、実際に論文を書き始めるとなると、不安に思うことがいろいろと出てくるかもしれませんね。

そこで吉田南総合図書館では、この夏も「卒論・修論執筆応援キャンペーン」を開催します。今年度は来館が難しい方のために、相談チャットを開設しました！ぜひ右記のリンクもしくはQRコードからチェックしてみてください。

## 【卒論・修論相談チャット】

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/index.html>

当館webサイト右下にあるチャットウィンドウから相談・質問のメッセージを送ってください。



また、過去に公開し好評だった先輩の体験談をまとめた冊子や、論文執筆の参考書からおすすめのものを集めたブックリスト等もあわせて公開します。そちらもあわせてご参照ください。

## 【サービス】 ハンディ辞書が1ヶ月貸出可能になりました

運用を見直し、**語学ハンディ辞書のみ**参考図書扱い※を止めることになりました。開架図書と同様に貸出ができますので、どうぞご利用ください。

## ハンディ辞書

↑背表紙に「ハンディ辞書」と水色の横長ラベルがあるもの

※1F参考図書コーナーにある資料は、通常貸出できず、当日のみの1日貸出となります

## 【旧】

語学ハンディ辞書は参考図書扱いとし、持ち出しは手続き当日のみ可



## 【新】

語学ハンディ辞書は開架図書扱いとし、1ヶ月貸出可能に



## 【サービス】 電子リソースを活用しよう

図書館機構では、電子ジャーナル、データベース、電子書籍など、オンライン上で利用できる資料(電子リソース)を数多く提供しています。その多くは自宅など学外からでも利用可能です。

ぜひ電子リソースを活用し、自学自習の一助としてください。

## 【電子リソースへのアクセスについて】

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/erdb/13505>



電子ジャーナルと電子書籍あわせて約12万タイトルが利用できます！



## 【Topic】 Thesis writing support campaign (2021/07/01~08/06)

As summer approaches, many students are working hard on their theses. Some students may feel some uncertainties once they actually start writing their thesis.

The Yoshida-South Library is holding the Thesis Writing Support Campaign 2021 this summer as well. We will be holding a consultation chat session for those who have not been able to come to the library this year! Check out the link or QR code listed on the right.

## Thesis Consultation Chat Session

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/index.html>



We will also be releasing booklets which include stories from upper-class students which were popular in the past, lists of recommended books from thesis writing reference materials, and more. Be sure to check these out as well.



## 【Service】 “Handy Dictionary” can be borrowed for one month

We have revised our management policy and no longer treat only the Foreign Language Handy Dictionary books (books with “Handy Dictionary” on a light blue oblong label on their spine) as reference books\*. These can be borrowed in the same manner as normal library books.

\*Materials at the Reference Books Corner on the first floor cannot be borrowed in principle. They can be brought out of the library, but must be returned on the same day.

## Previous policy

Foreign Language Handy Dictionary books are treated as reference books. They can be brought out of the library, but must be returned on the day of your procedures.



## Current policy

Foreign Language Handy Dictionary books are treated as normal library books and can be borrowed for one month.

## 【Service】 Study at home guide to E-Resources

The Kyoto University Library Network offers many electronic resources online such as electronic journals, databases and electronic books. Most of these resources can be used off-campus such as in the comfort of your home. Take advantage of these electronic resources to give your studying time a boost.

## Access to Electronic Resources

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/erdb/13505?lang=en>



You can use about 120,000 electronic journals and books in total!



## 夏休みに読みたい本を教えてください

## 夏休みに観たいDVDを教えてください

## Please tell us a book you want to read over summer break

## Please tell us a DVD movie you want to watch over summer break

『饗宴』プラトン著：長期休みは、ふだんなかなか手が出ない古典をじっくり読むよい機会です。プラトンの著作は対話形式で読みやすく、とくに『饗宴』は場面設定や登場人物も華やかで楽しく読めると思います。『青い麦』フランスの女性作家コレットによって書かれた本なのですが、とにかく風景や人物の描写が綺麗です。内容はともかく表現が爽やかなので、暑い日に涼しげな空気を感じることができるのがおすすめポイントです。『指輪物語』トルキン著：現在のファンタジーものの原点的存在といえる作品。映画を観てホビット、ドワーフ、エルフにワクワクしました。そういえば、しっかりと読んだことがまだ無かったので、時間のある時にじっくりと読みたいです。『ロリータ』ナボコフ著：夏と言えば長編小説！ その中でも、特に僕が毎年読み返したくなる一冊です。最近の夏は爽快感からほど遠く、茹だるような酷暑ばかり。そんなときは、愛もドロドロしている方がいいと思います。本作は「ロリコン」の語源にもなっている、名作でありかつ問題作。少女を愛する歪な男の心象は、この猛暑の倦怠感にこそぴったりな気がします。

『20世紀の歴史：両極端の時代』上, 下 エリック・ホブズボーム著：1996年に出版された本の新訳です。夏休みに腰を据えてじっくり読むのに相応しい本かなと思います。文庫なので持ち運びにも便利です。コロナが落ち着いていればどこかへ出かけて読むのもおすすめです。『天体観測に魅せられた人々』エミリー・レヴェック著：図書館でふと手に取って見た本でしたが、天文学者の生き方がよくわかって面白かったです。1年のうちわずか1日、さらにわずか1mmの単位でキャリアに棒を振ってしまうくらいの緻密さと、宇宙の果てまで探し求める壮大さ、それを追いかける人間臭い人たちの話、おすすめです。『貧困と飢饉』アマルティア・セン著：ノーベル経済学賞を受賞したインドの経済・倫理学者であるアマルティア・センの名作です。世界各地の「大飢饉」の原因は、食料供給量の不足ではなく人々が食料を入手する能力と資格の剥奪にあることを実証した画期的な書です。『入門Python3』Bill Lubanovic著：大学生の夏休みは何かを始めるのにぴったりだ。なにせ長い。本書は、プログラミング言語、Pythonの入門書である。分かりやすく、ユーモアも交えた語り口でPythonを学ぶことができる。私はこれを昨年購入しておきながら、未だに読み終わっていないため、夏休み中にはしっかり入門したいと考えている。

『文系と理系はなぜ分かれたのか』隠岐さや香著：文理融合が叫ばれるようになって久しく、総合人間学部や人間・環境学研究科もまた、そのような流れの中に位置づくわけですが、まだまだ文系/理系の区分は現役。他の院生と話しても、やっぱり「文系だなあ」「理系だなあ」と思うことがあります。無理に垣根を取っ払うよりも、まずはどうしてそんな垣根が生まれたのかを考えてみる方が先なのか？ 新書なのでさっくりと読めます。文理の壁に苦しむ人は一読の価値ありかと思えます。『現実性の問題』入不二基義著：「現実」について哲学した本。私の研究分野にも関わる話題なので、夏休みを使って読みたい。『夜行』森見登美彦著：森見登美彦と聞いてコミカルな作品を思い浮かべる人も多いと思いますが、この作品は背筋が寒くなる怪談です。登場人物の旅先となる尾道、奥飛騨、津軽、天竜峡のほか、京都鞍馬の祭りが重要な舞台になっています。普段は意識しない夜のあやしさ・不気味さを強く感じる、夏の夜に読みたい一冊です。

『パラノーマル・アクティビティ』最近(5月当時)の急な気温の高まりにうんざりし、何かホラー映画を見て気を紛らわせようとして視聴した作品。低予算ながら大ヒットしたことで知られる。ホラーで暑さを忘れた方、あるいはホラーは暑さを忘れさせてくれるかに関心がある方におすすめ。『チェンジリング』2008年のイーストウッド監督作品です。1920年代にロサンゼルスで実際に起こった連続少年誘拐殺人事件を基にしています。突如母親の目の前から姿を消した少年はどこへ行ってしまったのか。映画中盤以降の衝撃的な展開と息子を必死に探し続ける母親の姿が印象的な映画です。『RENT』映画化されたブロードウェイ・ミュージカル。メインテーマであるSeasons of Loveは缶コーヒーのCMソングにも使われていて、ご存知の方も多いかも。明るい雰囲気。『ベジャール・バレエ・ローザヌヌ 80分間世界一周』天才的振付家モーリス・ベジャールの最後の作品。今は、劇場とかに行けないのでDVDで我慢。『不都合な真実』2006年に公開されたこのドキュメンタリーは、アル・ゴア元副大統領が主演、脚本を務め、世界に地球温暖化の深刻な状況を広く知らせた作品です。本作でアルは気温の上昇によって洪水や干ばつ、ハリケーン、気候難民の数が増大すると警告し、公開から10数年が経ったいま、その警告は現実のものになっています。『ジャスティス・リーグ：ザック・スナイダーカット』新しくBDで出た『ジャスティス・リーグ：ザック・スナイダーカット』です。2017年に劇場公開された映画ではスナイダー監督が降板されましたが、ファンの署名活動により、スナイダー監督が編集したバージョンが今年とうとうネット配信やBDで公開されました。アメリコ好きの間では話題の作品となっています。4時間を超える大作なので夏休みを使って観たいです。

『日本のいちばん長い日』終戦記念日にちなんで選びましたが、単純に映画としてテンポがよく、とても面白いです。『お引越し』30年前の京都、鴨川、祇園祭。家族の赤裸々な事情が、夏の霧の向こうに見え隠れします。何が素晴らしいかって、喜怒哀楽に全身を奪われながら、人がほんとに力を込めて変わっていくことと、クラスメイトの優しさ、あと休日に寝転がっても違和感なくなってしまう鴨川の雰囲気。ちょっとマイナーな映画ですが、京都にいるうちに、あるいは京都の雰囲気を思い出す手助けに、ぜひみてください。『この世界の片隅に』夏は第二次世界大戦に関連した報道などに触れる機会が多いと思いますが、その中でも、戦時下の日常生活に焦点を当てた作品としておすすめです。この映画では、第二次世界大戦中の呉を舞台とし、のんびりとした性格のすずさんが送る日々の暮らしが描かれています。すずさんの毎日が普通だけに、日常に決定的な打撃を与える戦争の恐ろしさがリアルで身近に感じられ、ただ毎日暮らしていくことへの願いがとても切実に伝わる作品です。『サマーウォーズ』夏の熱気によって生活の活発さがさらに盛り上がる時間、逆に周囲の喧しさとは対照的に静まり返る時間の両方を体感できるのがおすすめポイントです。個人的なことですが、私の幼少の頃お盆にいなかの祖父母の家で親戚が大勢集まる風習があり、その楽しさや賑やかさを思い出すこともこの映画を好きな理由の一つです。『ピンポン』あつがなついで!!

『Symposium』written by Plato: The long break is an excellent opportunity to read classics that I usually don't have time to read. Plato's works are easy to read in the form of dialogues, and I think that Symposium in particular is a fun read with its brilliant setting and characters. 『Blue wheat』The French woman writer; Colette wrote this book. The scenery and descriptions are beautiful. The expressions are refreshing, whatever the contents are. I recommend the book as a way to feel the cool air on a hot day. 『The Lord of the Rings』written by J. R. R. Tolkien: The book I want to read during this summer break is The Lord of the Rings by Tolkien. This work provides the starting point for today's fantasy stories. When I saw the movie, I was impressed by the hobbits, dwarves and elves. I haven't read this book thoroughly yet, so I would like to read it in depth when I have time. 『Lolita』written by Vladimir Nabokov: Summer is the season for full-length novels! This is a book that I especially like to reread every year. Recently, summer weather has been far from comfortable with boiling heat every year. During such times, I enjoy messy love stories. This book is both a masterpiece and a problematic work, which is also the origin of the term lolicon. The mental image of a twisted man who falls in love with a little girl seems to fit perfectly with the washed-out feeling of this heat wave.

『The Age of Extremes: A History of the World, 1914-1991』, Vol. 1 and 2, written by Eric Hobsbawm: This is a new translation of this book published in 1996. I chose this book because I thought it would be worth reading carefully during the summer break. It's a paperback, so it's easy to carry around. I would recommend going out somewhere to read it if the COVID-19 situation settles down. 『The Last Stargazers: The Enduring Story of Astronomy's Vanishing Explorers』written by Emily Levesque: I happened to pick up this book at the library, and it was very interesting to understand the life of an astronomer. I recommend it for the story about the precision with which one day out of the year, or even one millimeter, can ruin one's career, as well as the grandeur of the search to the ends of the universe and the humanistic people who pursue it. 『Poverty and Famines: An Essay on Entitlement and Deprivation』written by Amartya Sen: This is a masterpiece by Amartya Sen, an Indian economist and ethicist who was awarded the Nobel Prize in Economics. It is a revolutionary book that demonstrates that the cause of great famines around the world is not inadequate food supplies, but the deprivation of people's ability and entitlement to food. 『Introducing Python 3』written by Bill Lubanovic: Summer break is the perfect time for university students to start something new. After all, it's a long break. This book is an introduction to the Python programming language, which enables readers to learn Python in an easy-to-understand and humorous way. I bought this last year but have yet to finish reading it, so I am hoping to start learning the language during the summer break.

『Bunkei to Rikei ha Naze Wakaretanoka (Why Did We Separate Humanities and Sciences?)』written by Sayaka Oki: People have been calling for the integration of the humanities and sciences for a long time, and the Faculty of Integrated Human Studies and the Graduate School of Human and Environmental Studies also fall within this movement. However, the division between humanities and sciences still exists. When I talk with other graduate students, I sometimes feel that they are humanities-oriented or science-oriented. Rather than forcibly removing barriers, I think it might be better to first think about why these barriers were formed. This is a pocket book and can be read quickly. I think it's worth reading for those struggling with the barrier between humanities and sciences. 『The Problem of Act-Reality』written by Motoyoshi Iriyama: This is a philosophical book about reality. I would like to read this book during summer break as it is related to my research field.

『Yako (Night Travel)』written by Tomihiko Morimi: Most people may think of comical works from the name of Tomihiko Morimi. However, this work is a ghost story that will send chills down your spine. In addition to the characters' journeys to Onomichi, Okuhida, Tsugaru, and Tenryukyo, the fire festival in Kurama, Kyoto, is an integral setting of the story. This is a book that I would like to read on a summer night, when I have a strong sense of the weirdness and eeriness of the night that I am not usually aware of.

『Paranormal Activity』I have gotten sick of the sudden rise in temperature recently (in May) and wanted to watch a horror movie to take my mind off the heat. This film is famous for being a big hit despite its low budget. I recommend this film for those who want to forget the heat through watching a horror movie, or who are curious about whether horror can make you forget the heat. 『Changeling』This is a 2008 film by Clint Eastwood, based on a series of kidnappings and murders of children that actually took place in Los Angeles in the 1920s. A boy suddenly disappears right in front of his mother's eyes. The shocking developments after the middle of the film and the mother's desperate search for her son leave a lasting impression. 『RENT』This film is a Broadway musical that was made into a movie. The main theme song, Seasons of Love, had been used as a commercial song for canned coffee, so many people may know it. In contrast to the cheerful theme song, the main characters have challenging backgrounds such as sexual minorities, HIV carriers, and drug addiction. Rent means the money you pay to live somewhere. The characters struggle to cope with the harsh reality of not being able to pay their rent, but still have the strength to live for today. Most of the cast from the stage version were retained for the movie version, to create a Broadway-like experience. The DVD is available at the Yoshida-South Library. It's a great movie to watch in the comfort of your home! (I hope to see it on stage again someday!) 『Béjart Ballet Lausanne: Around the World in 80 Minutes』This is the final film of the genius choreographer Maurice Béjart. We can't go to the theaters now, so I'll have to settle for the DVD. 『An Inconvenient Truth』This documentary, released in 2006, starred and was written by former U.S. Vice President Al Gore. The film made the world more aware of the seriousness of global warming. In the film, Gore warned that rising temperatures would increase the number of floods, droughts, hurricanes, and climate refugees. Now, more than a decade after the film's release, those warnings are becoming a reality. 『Zack Snyder's Justice League』Zack Snyder's Justice League has been newly released on blue-ray disc. Director Snyder was dropped from the theatrical release of the film in 2017. However, an edited version by Director Snyder was finally released online and on blue-ray this year, thanks to a fan-led petition. The film has become a hot topic among American comic book lovers. I would like to watch it over summer break, as it is a long film, over 4 hours long.

『Nihon no Ichiban Nagai Hi (Japan's Longest Day)』I chose this film to commemorate the anniversary of the end of the war. This is simply a very interesting film with a good tempo. 『Ohikkoshi (Moving)』This film is set 30 years ago on the Kamo River, at the Gion Festival in Kyoto. The outspoken circumstances of a family are coming in and out of view behind the haze of summer. The great things about this movie are that people are putting effort into changing while showing their emotions throughout their body, and the kindness of classmates, and the atmosphere of the Kamo River, where you can comfortably lie down on your day off. It's a bit of a minor film, but I highly recommend you see it while in Kyoto, or to help you remember the atmosphere of Kyoto. 『In This Corner of the World』During the summer, there are a lot of news stories and other forms of media related to World War II. Among these, I recommend this film that focuses on everyday life during the war. The film is set in Kure during World War II and depicts the everyday life of Suzu, a woman with a laid-back personality. Because Suzu's everyday life is normal, the horrific nature of war, which delivers decisive blows to her daily life, feels real and close. Her desire to just live every day is conveyed very sincerely in this work.

『SUMMER WARS』It is one of my most favourite movies. You can imagine both the atmosphere when the liveliness of life is further excited by summer and quiet in contrast to the excitement of the surroundings. This movie reminds me of the fun we had at my grandparents' house in the countryside during the Obon holidays when I was a child, with all the relatives gathered there.

『Ping Pong』Atsuga Natsuize! (Hummer is soot!)

